

サッカーの1対1におけるディフェンスの反転に関する研究

—関西学生サッカーリーグに着目して—

石間 寛人 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 望月 聡

キーワード：1対1, 反転, ディフェンス

1. 緒言

現代サッカーにおいて、組織的に守備をすることが主流になってきているが、どんなにパスで崩されても、どんなにカウンターを食らっても、最終的に1対1で止めさえすればほとんどの失点を防ぐことができる。それほどサッカーにおいて1対1というのは重要な要素である。

1対1では、相手のドリブルの進行方向を限定するワンサイドカットを意識することが一般的である。一方、オフense側としてはディフェンスのワンサイドカットとは反対方向に仕掛けることが一般的である。そうするとディフェンスは体を反転することになる。私の経験からすると、反転すると体のバランスが崩れ、一瞬反応が遅れる。いかに相手のフェイントに惑わされず、体を反転させずにバランスを崩すことなくついていけるかが重要なのではないかと考えた。本研究では、1対1のディフェンス側に着目し、反転がその勝敗結果にどのように結びついているかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

2012年関西学生サッカーリーグ前期におけるびわこ成蹊スポーツ大学の全11試合を調査対象とし、びわこ成蹊スポーツ大学の出場全選

手を調査対象者とした。VTR分析し、グラウンドを守備、中盤、攻撃の3つのゾーンに分割した。守備ゾーンでの1対1の場面を抽出し、反転した時としていない時を比較した。

3. 結果と考察

反転なしの勝ちが40回、負けは27回。反転ありの勝ちが15回、負けは40回だった。このことから、1対1では反転しない方が勝つ可能性が高くなるということがわかった。

4. 結論

総合的には、反転せずに対応したほうが1対1に勝つ可能性は高くなる。しかし、必ずしもそうであるとは限らず、反転せざるを得ない場面も出てくる。その時のために反転スピードをあげるトレーニングが必要となってくる。

引用・参考文献

College Soccer Central 2012

<http://college-soccer.com/>

Soccer clinic ポジション別スキルアップ DF 編
ベースボール・マガジン社

鈴木正治 (2010) 試合で勝てる！サッカー最強の戦術 メイツ出版 etc